平成ケ浜の歴史

趣旨　高陽団地と同様。（多分、建設系は百年経ってもやらない作業なので、ストックしておく。）

先史

※特記しない限り　出典：坂町／坂町の沿革（町制施行まで）

URL= https://www.town.saka.lg.jp/2013/07/17/1-3/

15-10千年前　熊野町・東深原遺跡の推定年代　：熊野町域に人が居住
・・・現在のところ安芸郡最古の遺跡

「熊野町域の縄文時代の遺跡は，標高200m～250m前後の熊野盆地の縁辺で，盆地への出入口部や熊野川，二河川およびその支流の形成した沖積低地を前面にのぞむ小高い場所に位置するものが多い。こうした場所は，食料となる獣類や魚類が集まりやすく，また，狩りなどのしやすい場所であったことをよくしめしている。」

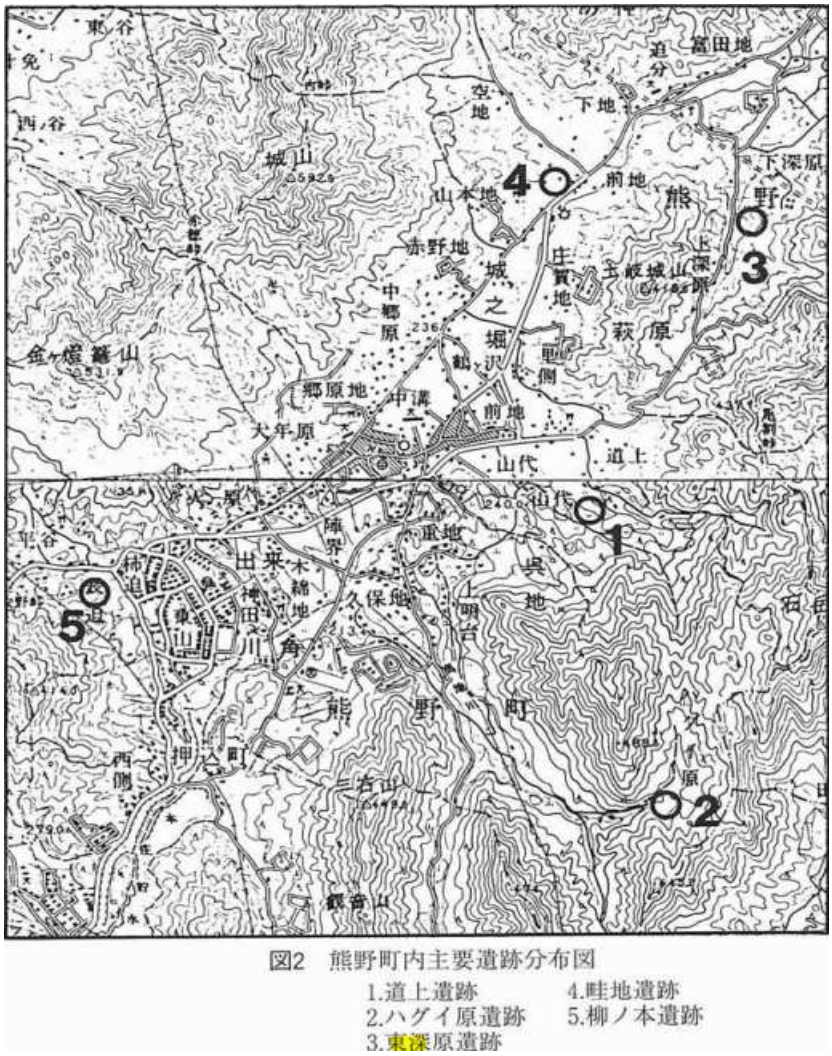


図2　熊野町内主要遺跡分布図
1.道上遺跡　4.畦地遺跡
2.ハゲイ原遺跡　5.柳ノ本遺跡
3.東深原遺跡

※出典：熊野町の遺跡と遺物

URL= https://www.town.kumano.hiroshima.jp/kyoudo/pdf/1993-03-doujyo-iseki_yanagimoto-iseki-tamesi-hakkutu-no-gaiyou/02.pdf

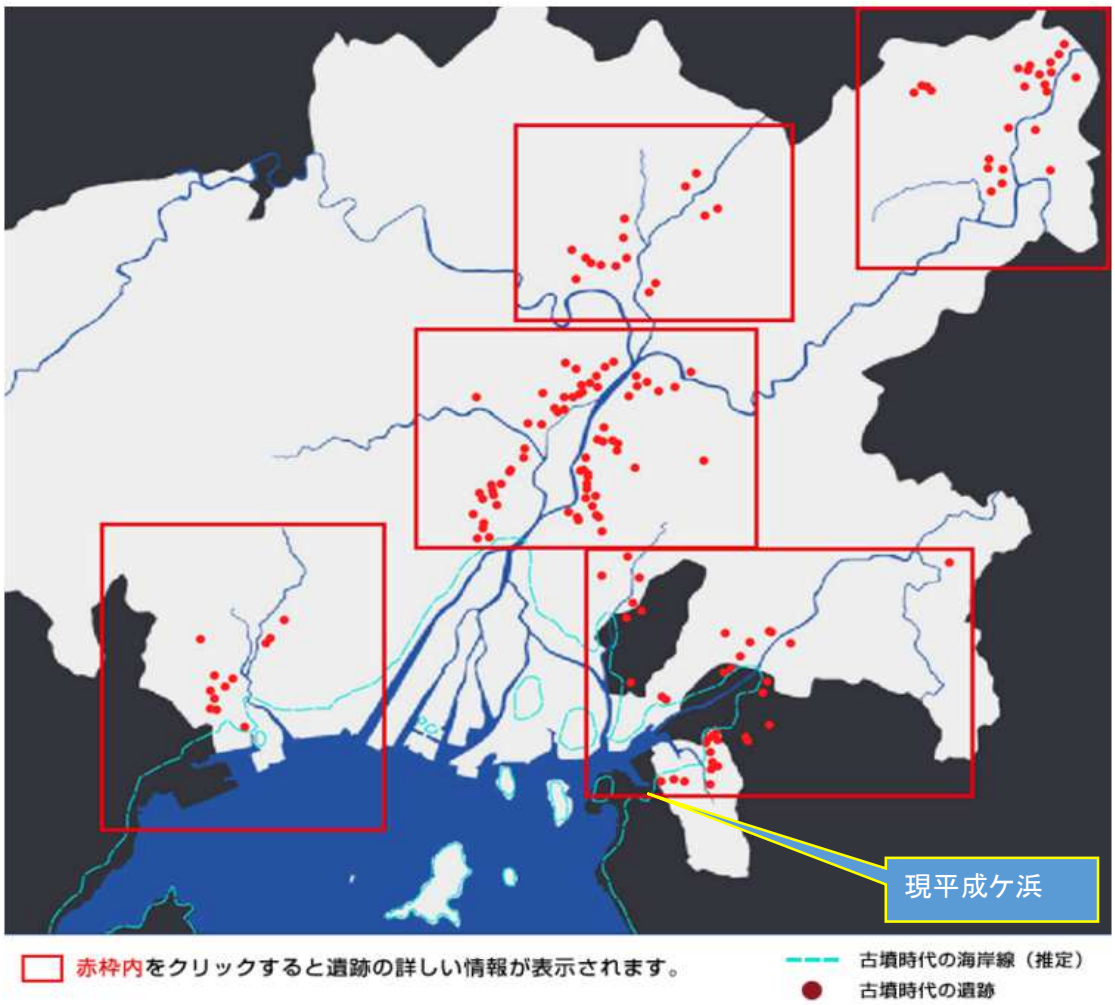
5世紀後半　西尾古墳（広島市安芸区）が造られる。

「　西尾古墳は、海田湾へと流れる矢野川流域を臨む、標高約50mの丘陵の先端上にある南北20m・東西14mの円墳です。埋葬施設は竪穴式石室で、内部からは玉類や鉄鏃・短甲などの武器、墳丘の周囲からはひろしまでは出土例が少ない円筒埴輪片が出土しています。」〔後掲ひろしまweb博物館〕

※出典：ひろしまWEB博物館　■西尾古墳（安芸区矢野）

URL= https://www.mogurin.or.jp/museum/hwm/details/tenzi03/2/t03_2_dai05.html

※古墳時代の遺跡は古・広島湾海岸線付近からの発見は少ない。



※出典：ひろしまWEB博物館■広島市内の古墳時代遺跡分布図
URL= https://www.mogurin.or.jp/museum/hwm/details/tenzi03/11/map/area_all.html

6世紀中ごろ 植田古墳（坂町）が造られる（昭和35年ころ、植田古墳・須恵器発見）
※現在「全壊」（経緯不詳）

旧市町村コード	番号	名称	種別	時代	所在地	概要	備考	旧番号	地図番号
34309	1	安芸郡坂町 植田古墳	古墳	古墳	植田	箱式石棺，須恵器	全壊		19

※出典：広島県／埋蔵文化財包蔵地一覧表
URL= https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki_file/kyouiku/pdf/e_019.pdf

中世

※特記しない限り　出典：坂町／坂町の沿革（町制施行まで）
URL= https://www.town.saka.lg.jp/2013/07/17/1-3/

1110～1113年（天永年中） 「鳥羽上皇が皇室領荘園として安摩荘を立荘。坂もこの荘域に含まれる※」
※坂町解釈。原典内に「坂」の文字はない。

「矢野浦（やのうら・現広島市安芸区）、衣田島（えたじま・現江田島町）、波多見浦（はたみうら・現音戸町音戸）を荘域とする広島湾東部の海辺荘園で当初は呉浦（くれうら・現呉市）も含んでいた。阿麻庄・海之庄・天ノ庄などとも記し、荘名は「和名抄」の安芸郡安満（あま）郷に由来する。
嘉禎三年（一二三七）三月日付の安摩荘荘官等申状（新出厳島文書）によると、天永年中（一一一〇―一三）鳥羽天皇によって立荘。」〔日本歴史地名大系「安摩庄」←コトバンク／安摩庄（読み）あまのしょう〕

※出典：広島県／埋蔵文化財包蔵地一覧表
URL= https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki_file/kyouiku/pdf/e_019.pdf

1260年（文応元年） 「八幡神社が坂村に勧請されたといわれる。この時、甲斐国から縫部権守が来て神主になったと伝えられる。※」
※坂町のみ記載。神社伝と思われる。

1335年12月（建武2年）「安芸守護武田信武、足利尊氏方として蜂起し、上洛を企てる。熊谷蓮覚、これより先、後醍醐天皇方の旗を掲げ矢野城に立て籠もる
12月23日～26日安芸守護方の攻撃を受け、矢野城落城する」

※下記城郭放浪記によると「建武2年(1335年)熊谷四郎三郎入道蓮覚によって築かれたと云われる。鎌倉で挙兵した足利尊氏に呼応して安芸国守護武田氏や毛利、吉川そして熊谷氏の惣領家も北朝方として挙兵するなか、安芸熊谷氏の庶家であった熊谷蓮覚は南朝方となった。蓮覚は矢野城に籠城し、武田・毛利・吉川の軍勢を迎え撃ち吉川師平を討ち取るなど激闘を重ねたが、四日間にわたる攻防の末に落城、蓮覚は討死した。」
従って、南朝方の抵抗戦があったことは伝わるが、詳細は不詳。上記いずれの伝も、太平記原文等にヒット無。

※出典：城郭放浪記／安芸矢野城
URL= https://www.hb.pei.jp/shiro/aki/yano-jyo/

1445年（文安2年）「 中世の矢野・坂一帯は，矢野に本拠を置く野間氏が勢力を伸ばしていた地域で，文安2(1445) 年に室町幕府から領地を与えられて尾張国野間から移住してきた野間氏は，矢野・坂から音戸の瀬戸あたりまでの海岸部に勢力を伸ばし，海上活動によって広島湾東部の海運などの交通・交易の権益によって勢力を拡大した海賊衆的な側面をもった領主だったと考えられています。」
「中世には矢野を本拠地とした野間氏に関連するとみられる山城跡が上ノ城を含めて5か所知られていました。
城跡は，調査前から3か所の郭（平坦面）と1か所の堀切が確認されていましたが，発掘調査によって，最高所の１郭と2郭の間の切岸（人工的な崖）の下部に新たな堀切が存在していたことが発見されました。」

※出典：中世の坂の「村の城」・上ノ城！
URL= https://www.harc.or.jp/hakkutsu/h30.html

海から見た坂の城跡

1638年（寛永15年）「坂村で検地が行われる（この時、53町1反8畝15歩772石3斗）」
※坂町の地名初出と思われる。

近世

※特記しない限り 出典：坂町／坂町の沿革（町制施行まで）
URL= https://www.town.saka.lg.jp/2013/07/17/1-3/

1679年（延宝4年）「細越古新開が開かれ、検地が行われる。このころより新田開発が進む」

1710年1月（宝永7年）「矢野と坂で山林境界について争論が起きる」　※出典不詳

1722年（享保7年）「坂村で鰯網が行われ、運上銀を納付する」

※33年後の延享2年（1745年）に「広島藩、横浜浦の鰯網操業を許可する」という記事があり、この間は「無断営業」的な集団がいたと思われる。
「村内の集落は総頭川中下流域の坂本郷と，天地川下流域の小屋浦，広島湾に突出した陸繋島の砂州上にある横浜※※の3か所に集中していたが，横浜は漁業中心の地域であった。当時漁民83・その家族252，漁船60とあり，また横浜だけで「当時百五拾人年中漁業のみニ而渡世仕候」とある（国郡志書出帳）。」〔後掲角川〕 ※※横浜：現・平成ケ浜から南西500m余

※出典：角川日本歴史地名辞典／坂村(近世)
URL= https://jlogos.com/docomosp/word.html?id=7422005

1790年（寛政2年）「坂村庄屋茂三郎、庄屋上席に昇格する」

1862年5月（文久2年）「浅野少将（元藩主浅野斉粛）が横浜浦での漁業を回覧」

1868年2月（慶応4年）「農兵を組織する触れに応じ、坂村でも援撃隊を組織する（6月解散）」

明治

※特記しない限り　出典：坂町／坂町の沿革（町制施行まで）
URL= https://www.town.saka.lg.jp/2013/07/17/1-3/

1871年8月（明治4年）「武一騒動に伴い、坂村民も多くが広島城下に駆けつける」

※新政反対一揆の一つ。
「　広島領内の「武一騒動」は、明治4年 10 月の鎮静（ちんせい）化した。逮捕者は 573 名に達した。
　首謀者（しゅぼうしゃ）として、北広島町（旧千代田町）有田村の山縣武一（寺子屋を開き石門心学を教えていた）が、一揆の責任者として逮捕された。そして、48 歳の若きで、梟首（きゅうしゅ）にされた。武一のほか 8 名が死刑となった。
　かれが首謀者にされた理由として、武一が同年 8 月 11 日に提出した「御藩内十六郡百姓共」の名による嘆願（たんがん）書の起草者だったという。」

※出典穂高健一ワールド／A035-歴史の旅・真実とロマンをもとめて　明治時代の広島⑥　明治新政府を震撼させた「武一騒動」はなぜ発生したのか（下）
URL= https://www.hodaka-kenich.com/history/2020/07/06030750.php

1873年8月（明治6年）「坂村の戸長は、兒玉治道が大屋村、吉浦とともに務める。兒玉道信は矢野村、海田村、船越村の戸長を担当する」　※坂村が安芸郡沿岸を政治的に主導した形跡有

1873年11月（明治6年）「横浜地区で明倫舎を設置する。学制に応じて、佐々木良右衛門の家を借り、後者とする（横浜小学校の前身）」　※坂村横浜が先進地だった模様

1877年3月（明治10年）「（横浜地区の）中東丈右衛門、坪川甚三郎、吉原元五郎、中東丈吉4人は釜山へ渡航」

※下記サイトに詳述

表 3-6　広島県漁民の朝鮮海出漁の実績（1898–1907 年）

年度	全国		広島		割合	
	船数	人員	船数	人員	船数	人員
1898	1,223	5,466	297	1,482	24%	27%
1899	1,157	5,331	333	1,621	29%	30%
1900	1,654	8,107	507	2,535	31%	31%
1901	1,411	6,187	247	884	18%	14%
1902	1,394	6,121	336	1,506	24%	25%
1903	1,589	7,187	374	1,773	24%	25%
1904	1,581	6,975	352	1,772	22%	25%
1905	2,449	10,853	433	2,242	18%	21%
1906	2,748	12,245	475	2,443	17%	20%
1907	3,684	16,062	545	3,823	15%	24%

『広島県水産会報』（1909）より作成.

※出典：ダイエット遊記／《第十次[46]釜山・南海岸》オレンマネ・デジクッパブの日／影島山手(下)／瀬戸内から朝鮮へ魚を釣りに

URL= https://yanben.sakura.ne.jp/d-yuki/2019/10/10854#i-9

1888年5月（明治21年）「（横浜地区）対馬沖での烏賊釣り漁業者を対象に烏賊釣組合を設立する」

1896年9月（明治29年）「この時期、製鉄所建設の話が持ち上がる」

1903年（明治36年）「新たな漁場を求め、児島虎助、山根初太郎などがフィリピンに渡航する」

1903年12月（明治36年）「呉線開業式が挙行される（坂駅も開業）」

※「明治25年（1892年）6月　鉄道敷設法に、「海田市より呉に至る鉄道」が盛り込まれる」

1906年（明治39年）「横浜遠洋漁業探検組合を組織する」

大正～戦前・戦中

※特記しない限り　出典：坂町／坂町の沿革（町制施行まで）

URL= https://www.town.saka.lg.jp/2013/07/17/1-3/

1916年（大正5年）「（このころ）漁船は41艘、1600人が坂村から韓海に出漁している」

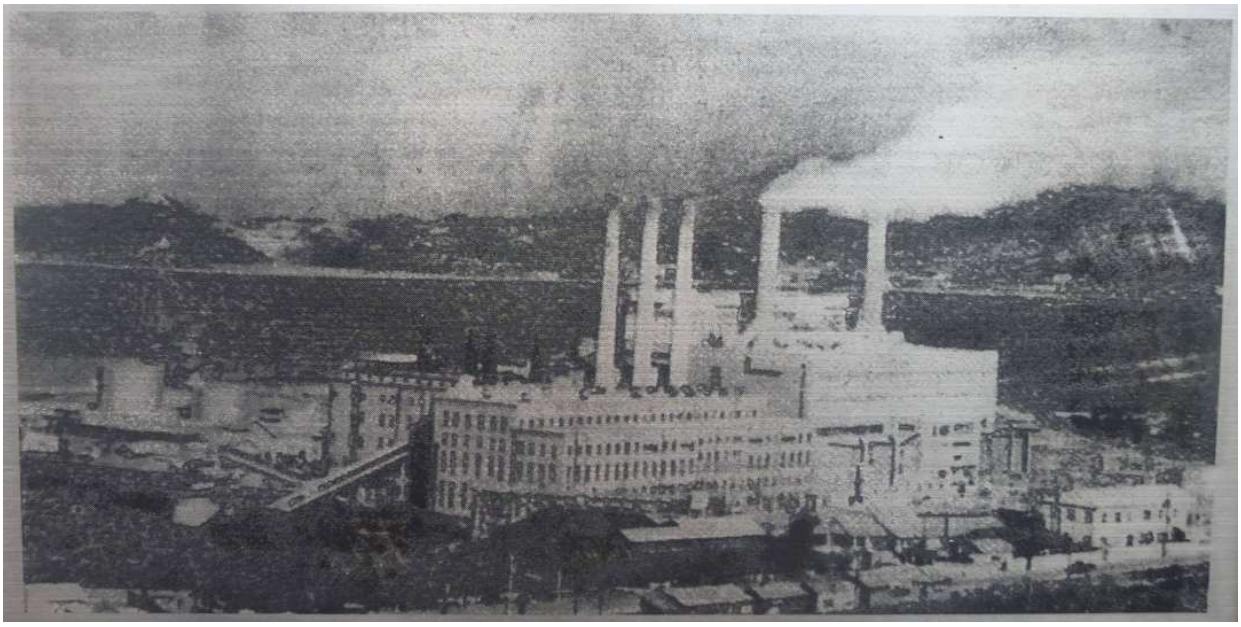
1925年7月（大正14年）「広島電気株式会社、安芸郡坂村丸子に火力発電所の建設工事に着手する（1期工事）」

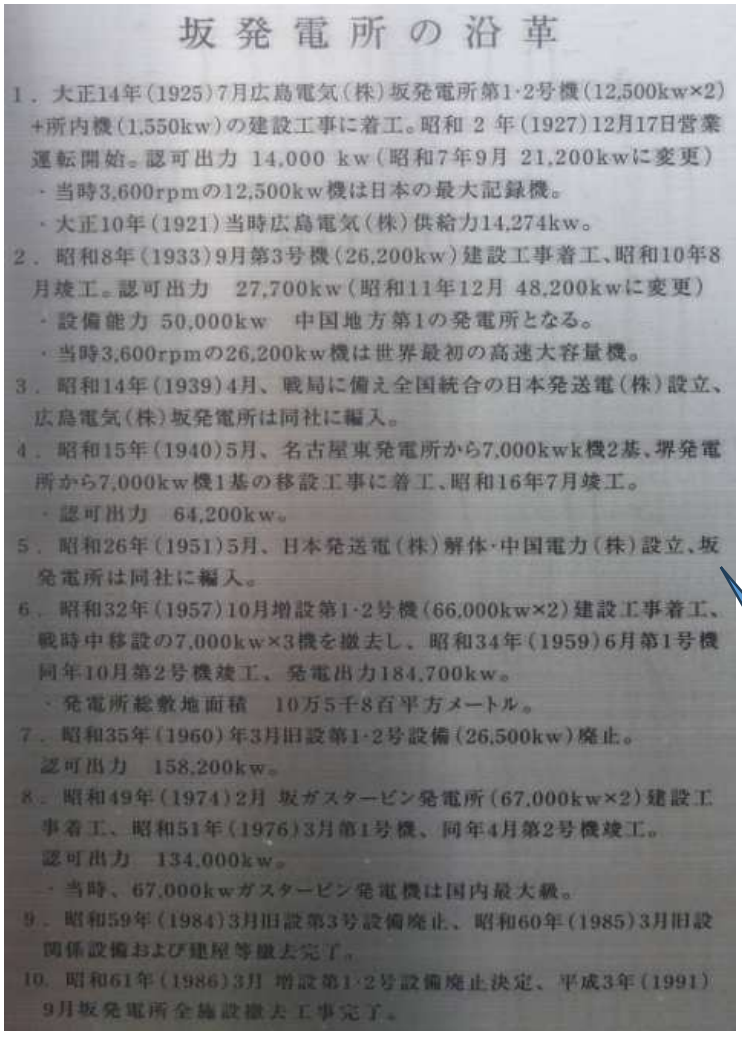
※昭和2年（1927年）12月　坂発電所運転開始

1939年4月 「日本発送電株式会社坂発電所となる」

(昭和14年)

※日本発送電株式会社：1939年（昭和14年）から1951年（昭和26年）までの間に存在した日本の電気事業を司った特殊会社である。国家総力戦体制を構築しようとする当時の日本政府の電力国家管理政策に基づき、東京電燈・日本電力など全国の電力会社の現物出資や合併によって設立された半官半民のトラスト





坂発電所の沿革

1．大正14年（1925）7月広島電気（株）坂発電所第1･2号機（12,500kw×2）+所内機（1,550kw）の建設工事に着工。昭和 2 年（1927）12月17日営業運転開始。認可出力 14,000 kw（昭和7年9月 21,200kwに変更）
・当時3,600rpmの12,500kw機は日本の最大記録機。
・大正10年（1921）当時広島電気（株）供給力14,274kw。

2．昭和8年（1933）9月第3号機（26,200kw）建設工事着工、昭和10年8月竣工。認可出力 27,700kw（昭和11年12月 48,200kwに変更）
・設備能力 50,000kw 中国地方第1の発電所となる。
・当時3,600rpmの26,200kw機は世界最初の高速大容量機。

3．昭和14年（1939）4月、戦局に備え全国統合の日本発送電（株）設立、広島電気（株）坂発電所は同社に編入。

4．昭和15年（1940）5月、名古屋東発電所から7,000kwk機2基、堺発電所から7,000kw機1基の移設工事に着工、昭和16年7月竣工。
・認可出力 64,200kw。

5．昭和26年（1951）5月、日本発送電（株）解体･中国電力（株）設立、坂発電所は同社に編入。

6．昭和32年（1957）10月増設第1･2号機（66,000kw×2）建設工事着工、戦時中移設の7,000kw×3機を撤去し、昭和34年（1959）6月第1号機同年10月第2号機竣工、発電出力184,700kw。
・発電所総敷地面積 10万5千8百平方メートル。

7．昭和35年（1960）年3月旧設第1･2号設備（26,500kw）廃止。
認可出力 158,200kw。

8．昭和49年（1974）2月 坂ガスタービン発電所（67,000kw×2）建設工事着工、昭和51年（1976）3月第1号機、同年4月第2号機竣工。
認可出力 134,000kw。
・当時、67,000kwガスタービン発電機は国内最大級。

9．昭和59年（1984）3月旧設第3号設備廃止、昭和60年（1985）3月旧設関係設備および建屋等撤去完了。

10．昭和61年（1986）3月 増設第1･2号設備廃止決定、平成3年（1991）9月坂発電所全施設撤去工事完了。

※出典：坂発電所跡記念碑※※にある「坂発電所の沿革」説明板←キョロちゃん／Vol. 2660 坂発電所跡記念碑（坂町役場前）

URL= https://gogo-kyorochan.official.jp/volume_026/2660_saka-power-station-monument/index-japanese.html

※※記念碑 →GM.

URL= https://maps.app.goo.gl/TiNckZEUhMneK7Eg8

イメージ的にか、あまり明確に書かれたものがないが、平成ケ浜及び周辺の住宅用地は、戦前の国策会社・坂発電所及びその周辺の戦後の埋立地と考えられる。

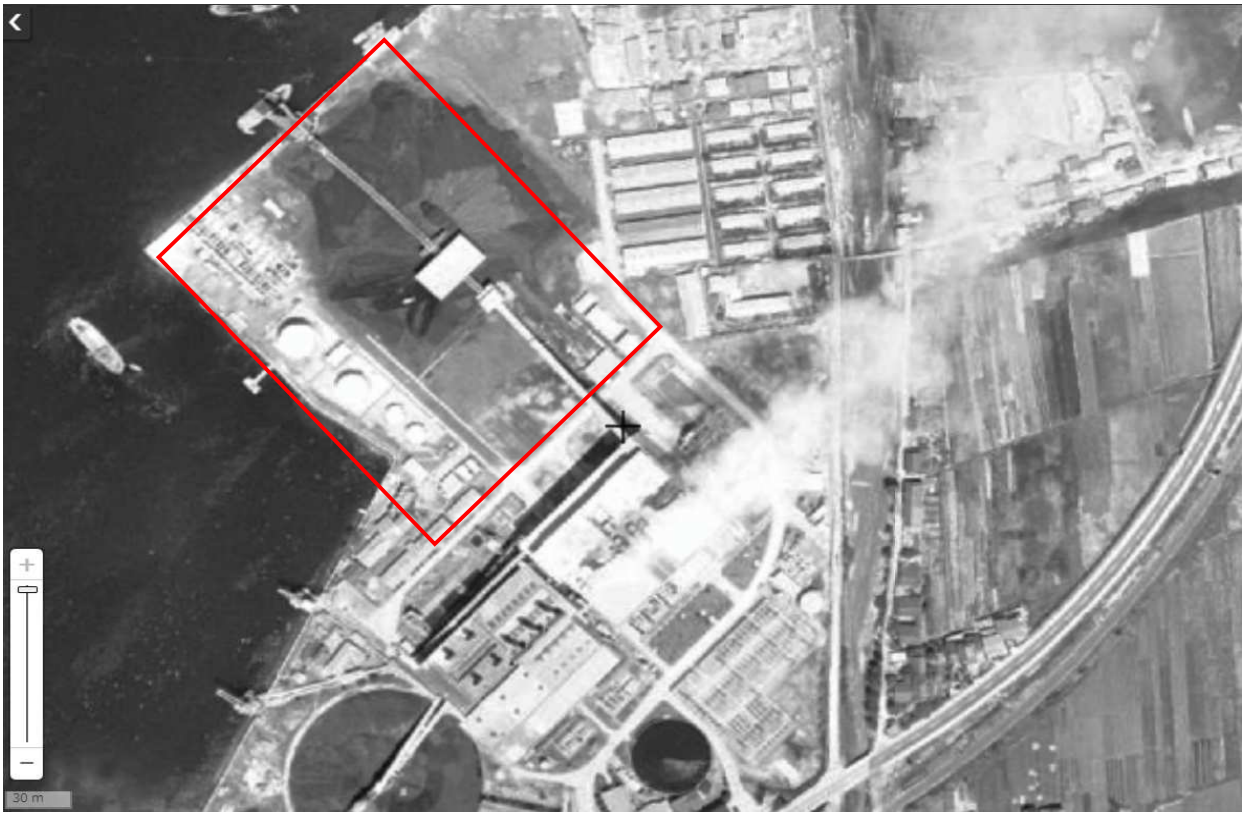
昭和（戦後）

1945-1950年（昭和20-25）

〔地理院地図／同左年代航空写真〕※プラス位置：平成ケ浜1号館

1961-1969年（昭和36-44）

〔地理院地図／同左年代航空写真〕※プラス位置：平成ケ浜1号館



1974-1978年（昭和49-53）

〔地理院地図／同左年代航空写真〕※プラス位置：平成ケ浜1号館

1979-1983年（昭和54-58）　〔地理院地図／同左年代航空写真〕※プラス位置：平成ケ浜1号館

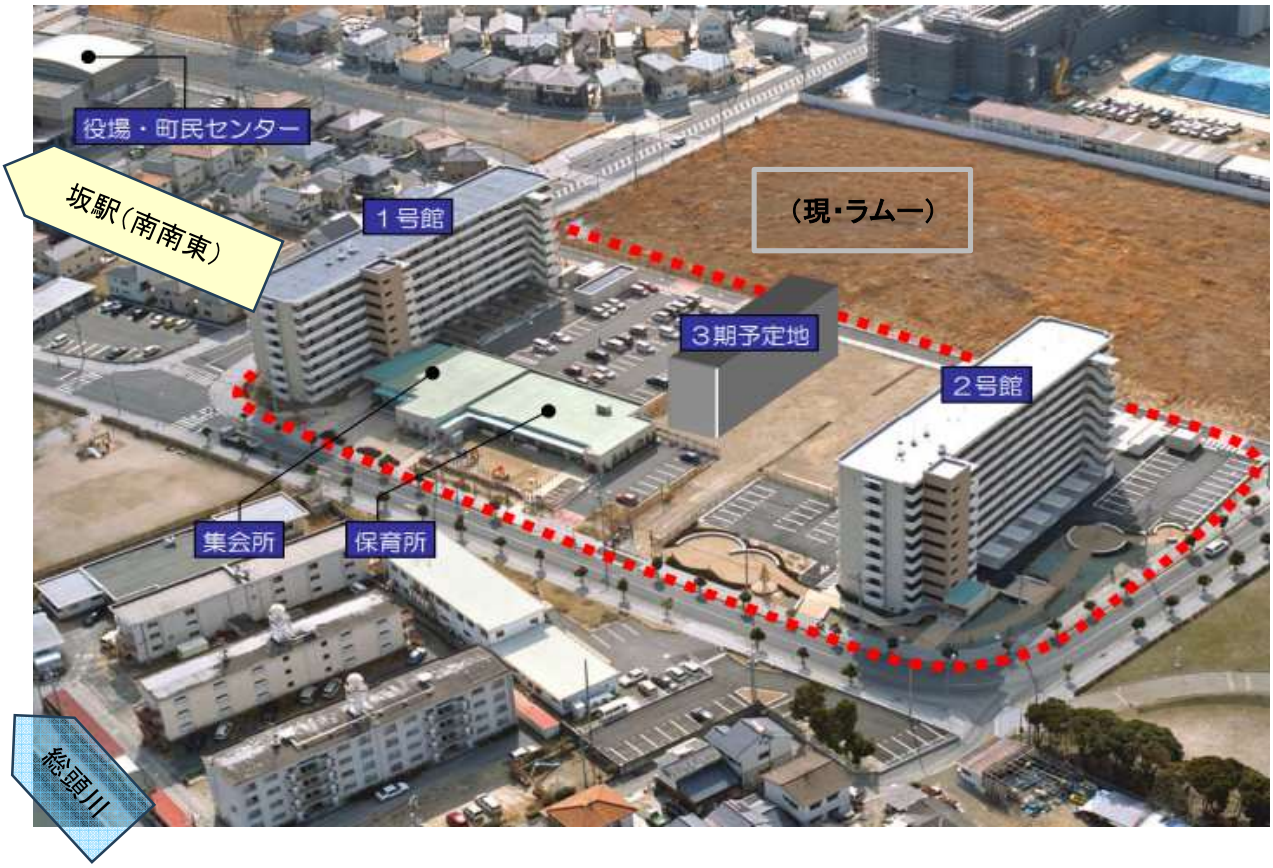
1984年5月（昭和59年）　「坂発電所（3号機）解体される」

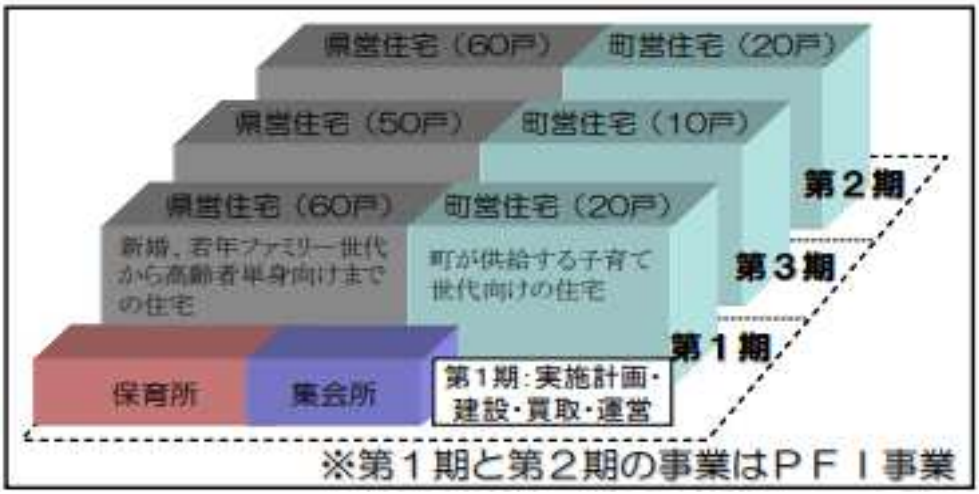
※出典：坂町／坂町の沿革（町制施行から）
URL= https://www.town.saka.lg.jp/2017/07/26/2-2/

1987-1990年
(昭和62-平2)

〔地理院地図／同左年代航空写真〕※プラス位置：平成ケ浜1号館

平成





2001年（平成13）　広島県、土地購入　（事業概要：　敷地面積1.34ha　総事業費7.6億円
第一期方式：BTO方式＝Build（建設）＋Transfer（譲渡）＋Operate（運営）
・民間事業者が施設等を建設し、
施設完成直後に公共施設等の管理者等（＝県）に
所有権を移転し、
民間事業者が維持・管理及び運営を行う事業方式

平成13年	土地購入（広島県）
平成15～17年度	第１期事業実施
平成18年 4月	１号館・保育所・集会所の供用開始
平成18～19年度	第２期事業実施
平成20年 4月	２号館の供用開始
平成20～22年度	第３期事業実施
平成23年 4月	３号館の供用開始予定
平成38年度	第１期事業の終了

出典：国交省「平成ケ浜住宅整備事業－PFI事業による県と町共同での子育て支援住宅の整備」
URL= https://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/kensei/jyutaku/jirei/019heiseigahama.pdf

事業の目標・整備方針

【事業目標】保育所や住宅の集会所を核として、子育て世帯を中心とした、地域に広がる複層的なコミュニティを形成する。
【整備方針】①子育て世帯の優先入居：新たな転出世帯の抑制等
②期間限定入居：子育て世帯の入居機会の均等等

地区等の問題点・課題

坂町では、可住地面積が少ないことによる、若者世帯の転出が課題となっていた。
少子高齢化対策として、「町外に住んでいる子育て世帯のUターン」の促進を図ることで、次世代を担う若い世代による町の活性化の推進が必要となっている。そのため、多様なニーズに対応できる、町全体の保育全般の充実・向上を図る施設整備が求められていた。

2002年
（平成14）

「坂町平成ヶ浜、造成開始直後（2002）」と題する画像

出典：akistyle 安芸区スタイルブログ 安芸区＋海田町・坂町・熊野町

URL= https://cbastyle.exblog.jp/20548758/

「坂町平成ヶ浜地区。JR坂駅北口から望む。2002年撮影。写真左側は、現在のパルティフジ坂。右が唯一、平成ヶ浜地区で、完成してすでに営業していた、ディックEX坂（ディックス坂と呼ぶ。現在はダイキEX坂）当時、県内で最大のホームセンターでした。」

「高層マンションや、倉庫や、商業施設がたくさんある、いまの平成ヶ浜からは想像できないくらい、なにもな状態。パルティフジ坂の入り口も、当時はタクシー乗り場と自動販売機があるのみだったんですね。」

2006年（平成18）　1号館供用開始　⇒　令和7年現在までの15年超段階で、全人口係数はプラスを維持
特に世帯数は増を続けており、世帯人口減による
人口増の鈍りが(特に令和代に)顕著になっているにせよ、
坂町の人口誘致策はかなり健闘していると見てよい。

[異説]〔Enpedia　出典: 謎の百科事典もどき『エンペディア(Enpedia)／平成ヶ浜地区』〕
近年坂町は、人口の減少に課題を寄せていて、この地区にマンションや県営住宅などを建て、若者が定住していたが町は人口が減少傾向である。

出典:坂町　人口推移　※住基人口ベース。ただし、平成17年度以降各年度の4月係数のみ抽出
URL= https://www.town.saka.lg.jp/%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E6%8E%A8%E7%A7%BB/

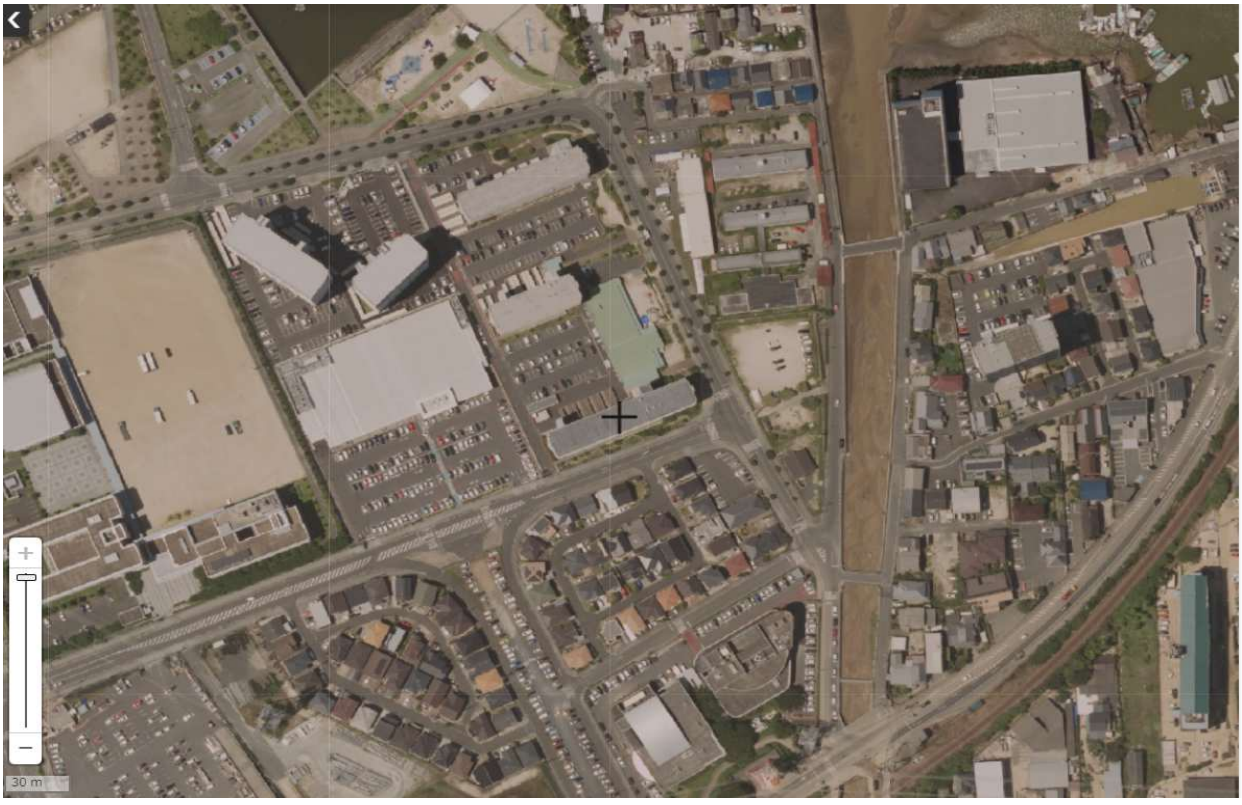
[異説]〔wiki　坂町〕
坂町は、昭和20年代までは安芸郡の陸地部にある町村では最も人口が多く、島嶼部の町村を含めても4番目に多かった[注釈 2]。しかし、昭和30年代から40年代にかけて陸地部の周辺町の人口急増により、現在も安芸郡の町として残る4町の中では最下位となっている[注釈 3]。
広島市と呉市に挟まれた場所にありながら、長年若者の人口流出に歯止めがかからなかった影響で、高齢者の割合が周辺の市町と比べて高いのが特徴である。
そのため、若者の定住を目指し、広島湾を埋め立てた平成ヶ浜地区にマンション・県営住宅[注釈 4]を整備することで若者の流出に歯止めをかけている。
坂町の人口は12,020人[注釈 5]まで減少したのち増加傾向に転じた。ただし、現在は減少傾向となっている。

注釈2^ 当時は、江田島町(現:江田島市江田島町)、音戸町(現:呉市音戸町)、倉橋町(現:呉市倉橋町)が坂町よりも人口が多かった。現在はこれら3町よりも坂町の方が人口が多い。
注釈3^ なお、広島市に編入される前までは安芸郡だった、安芸区の中野地区、矢野地区も人口急増により坂町よりも人口が多い。船越地区には一旦抜かれたものの、面積が狭いことから人口増加が止まり、平成以降は坂町の方が人口が多い。
注釈4^ いわゆる子育て支援住宅であり、生涯住むことができるものではない
注釈5^ 平成12年の国勢調査確定値を基準にした2004年4月1日現在の推計人口(男性5,622人、女性6,398人)。なお、同日現在の住民基本台帳人口は12,236人(男性5,788人、女性6,488人)。

	区分	総人口	対前年度増減率	男	対前年度増減率	女	対前年度増減率	世帯数	対前年度増減率
1	平成17年	12,379		5,873		6,506		4,860	
2	平成18年	12,820	[＋3.6%]	6,080	[＋3.5%]	6,740	[＋3.6%]	5,113	[＋5.2%]
3	平成19年	12,963	[＋1.1%]	6,162	[＋1.3%]	6,801	[＋0.9%]	5,221	[＋2.1%]
4	平成20年	13,189	[＋1.7%]	6,268	[＋1.7%]	6,921	[＋1.8%]	5,354	[＋2.5%]
5	平成21年	13,368	[＋1.4%]	6,358	[＋1.4%]	7,010	[＋1.3%]	5,473	[＋2.2%]
	【対平17増減率】	【＋8.0%】		【＋8.3%】		【＋7.7%】		【＋12.6%】	
6	平成22年	13,386	[＋0.1%]	6,370	[＋0.2%]	7,016	[＋0.1%]	5,490	[＋0.3%]
7	平成23年	13,428	[＋0.3%]	6,396	[＋0.4%]	7,032	[＋0.2%]	5,554	[＋1.2%]
8	平成24年	13,441	[＋0.1%]	6,421	[＋0.4%]	7,020	[▲0.2%]	5,599	[＋0.8%]
9	平成25年	13,337	[▲0.8%]	6,384	[▲0.6%]	6,953	[▲1.0%]	5,576	[▲0.4%]
10	平成26年	13,213	[▲0.9%]	6,333	[▲0.8%]	6,880	[▲1.0%]	5,631	[＋1.0%]
	【対平17増減率】	【＋6.7%】		【＋7.8%】		【＋5.7%】		【＋15.9%】	
11	平成27年	13,085	[▲1.0%]	6,290	[▲0.7%]	6,795	[▲1.2%]	5,619	[▲0.2%]
12	平成28年	13,049	[▲0.3%]	6,258	[▲0.5%]	6,791	[▲0.1%]	5,640	[＋0.4%]
13	平成29年	13,104	[＋0.4%]	6,284	[＋0.4%]	6,820	[＋0.4%]	5,670	[＋0.5%]
14	平成30年	13,194	[＋0.7%]	6,319	[＋0.6%]	6,875	[＋0.8%]	5,708	[＋0.7%]
15	平成31年	12,975	[▲1.7%]	6,192	[▲2.0%]	6,783	[▲1.3%]	5,637	[▲1.2%]
	【対平17増減率】	【＋4.8%】		【＋5.4%】		【＋4.3%】		【＋16.0%】	
16	令和2年	12,877	[▲0.8%]	6,160	[▲0.5%]	6,717	[▲1.0%]	5,681	[＋0.8%]
17	令和3年	12,875	[＋0.0%]	6,154	[▲0.1%]	6,721	[＋0.1%]	5,742	[＋1.1%]
18	令和4年	12,858	[▲0.1%]	6,112	[▲0.7%]	6,746	[＋0.4%]	5,752	[＋0.2%]
19	令和5年	12,741	[▲0.9%]	6,100	[▲0.2%]	6,641	[▲1.6%]	5,762	[＋0.2%]
20	令和6年	12,551	[▲1.5%]	6,016	[▲1.4%]	6,535	[▲1.6%]	5,739	[▲0.4%]
	【対平17増減率】	【＋1.4%】		【＋2.4%】		【＋0.4%】		【＋18.1%】	
21	令和7年	12,391	[▲1.3%]	5,931	[▲1.4%]	6,460	[▲1.1%]	5,736	[▲0.1%]

出典：GTC統計　日本広島県安芸郡坂町の国旗安芸郡坂町グラフで見る安芸郡坂町の住民基本台帳人口（総数）は多い？少い？（推移グラフと比較）

URL= https://x.gd/aAzXn（短縮）

令和

2025年　現況〔地理院地図／航空写真〕※プラス位置：平成ケ浜1号館
（令和7）